寄稿連載「希望の種」30回振り返って

本紙県版で、ＮＰＯのコンサルティングや研修を活動の軸にしている「仮認定ＮＰＯ法人アカツキ」代表理事、永田賢介さん（34）による寄稿連載「希望の種―ふくおかＮＰＯファイル」を昨年10月から今月にかけて掲載した。紹介した県内のＮＰＯ法人は30団体に及んだ。連載を終え、伝えたかったことや思いを永田さんに寄稿してもらった。

本当の主役は読者

永田賢介さん

連載を始める際、自分で三つのルールを決めていました。一つは「人の尊厳を守る」です。例えばホームレスや、ひとり親家庭で経済的に苦しい方、障害があって生まれた方など、ＮＰＯのサービスの受益者となる人たちを勝手に「社会課題」や「弱者」と位置付けず、一人の隣人として書くということです。紹介したＮＰＯはいずれも、人を強者と弱者、支援する側とされる側に分けるのでなく、「共に生きる」という姿勢を持って事業を行っていました。

二つ目は「チームでの仕事に焦点を当てる」です。代表の個人事業的にスタートしたＮＰＯが、継続が難しくなったり、ワンマン化していったりするのを、コンサルタントとして数多く見てきました。連載記事では、そのＮＰＯ組織の中で普段はスポットライトが当たりにくい、事務方や若手のスタッフを取材し、登場していただきました。リーダーの仕事、熱い思いも重要ですが、チームが機能してこそ、ＮＰＯの新しい可能性が見いだされるとの思いがありました。

最後は「読者を主役にすること」。ＮＰＯの活動を分かりやすく単純化すると、特殊で、利他的な善人、ともするとスーパーマンや救世主のような大げさな描き方をしてしまう懸念もあります。しかし、そこで働く人々にも家族がいて、日々の生活があります。一つの組織ができることに限界もあります。

ＮＰＯには、地域社会を良くする限りない可能性が秘められていますが、同時に読者の皆さんを、向こう側にいる「観客」や感動の「消費者」にしてしまってはいけないと思うのです。「私」の外側にある「社会」を変えるのではなく、「社会」を構成する要素である「私」を変えていく。

実は、私たち一人一人が、連載タイトルの「希望の種」ではないでしょうか。

取材に応じていただいたＮＰＯの皆さん、西日本新聞の方々、日々を共に歩んでくれるアカツキの仲間たち、そして何より読者の皆様に感謝して筆を置き、また次の一歩の力にしたいと思います。ありがとうございました。

ＮＰＯ法人アカツキ代表理事　永田賢介さん

連載「希望の種」で紹介したＮＰＯ法人

	名称	主な活動
1	エデュケーションエーキューブ	個別指導型学習塾
2	ニコちゃんの会	障害者支援と芸術活動
3	マドレボニータ福岡	産前産後女性のケア
4	あすも特注旅行班	介護付き旅行サービス
5	ＡＩＰ	ＩＴ人材育成
6	エコけん	エコ活動と環境教育
7	ＫＩＤ’ｓ　ｗｏｒｋ	子どもの野外体験活動
8	キャンサーサポート	がん患者支援・啓発
9	チャイルドケアサポートセンター	子育て支援
10	福岡すまいの会	生活困窮者の支援
11	なおみの会	精神障害者自立支援
12	ウィッグリング・ジャパン	女性がん患者支援
13	ソルト・パヤタス	フィリピン貧困地区教育支援
14	メイクハッピー＆ピース	学習サポートや国際協力
15	改革プロジェクト	防犯パトロールランニング
16	ハッピーライド	体験イベント企画
17	スペシャルオリンピックス日本・福岡	知的障害者スポーツ支援
18	むなかた市民フォーラム	地域の市民活動支援
19	そだちの樹	子どもの相談窓口運営
20	グリーンシティ福岡	都市の自然環境創出
21	わくわーく	障害者の作業所運営
22	循環生活研究所	農業を通じたまちづくり
23	エスタスカーサ	障害者支援と場づくり
24	九州海外協力協会	地域の国際交流支援
25	箱崎自由学舎ＥＳＰＥＲＡＮＺＡ	フリースクール運営
26	九州補助犬協会	介助犬の育成
27	Ｒａｉｎｂｏｗ　Ｓｏｕｐ	性的少数者の支援、啓発
28	ＳＴＥＰ・北九州	引きこもり当事者の支援
29	タウンモービルネットワーク北九州	交通を中心としたまちづくり
30	博多織ＤＣ	技術伝承人材養成学校運営